説教20200524　サムエル上12:19-24　ヨハネ17:20-26 57 420 220

「すべての人を一つに」

キリストよお越しください。弟子たちの中に立ち、復活の御姿を現されたように、私たちのうちにもおのぞみ下さい。

 預言者サムエルは、年老いて自らの死を予感した時、全イスラエルの民たちに向かって告別の辞を語りました。それに対し、民たちは「僕たちのために、あなたの神、主に祈り、我々が死なないようにしてください。確かに、我々はあらゆる重い罪の上に、更に王を求めるという悪を加えました」と言って、自分たちのために執り成しの祈りをするようサムエルに求めました。その内容は「我々が死なないようにしてください」ということで大変分かりやすい願いです。私たちクリスチャンも今、子供のようにイエス様に向かってこのように願い祈ることは、実に御心に適っていると思います。

　そして今日の新約の聖書箇所ではイエス様はまさに、サムエルの頃の民たちから今の世の神の民である私たちクリスチャンに至るすべての神の民に対して、「彼らが死なないようにしてください」といって執り成しの祈りをしていてくださるのです。

　しかし私たちがこの世に身を置きながら「我々が死なないようにしてください」と子供のように祈るには、何か妨げがあって、雑音のなかにその声がかき消されているような気がいたします。その私たちの前に置かれている妨げとは、一体何なのでしょうか。そのこともイエス様は今日の聖書箇所で明らかに語っておられます。その妨げとは**世**のことです。

　**世**といっても日本語で一音節なのでなんのことかはっきりしませんが、聖書中、殊にヨハネ福音書においては、この**世**という言葉がよく語られ、とても重い意味が与えられています。**世**とは元のギリシャ語で言いますと、コスモスのことです。あー、コスモスなら知っている、この宇宙のことでしょ、とおっしゃる方もおられるでしょう。英語ではザ　ワールドと訳しています。なぜ私たちがコスモスと聞くと一応そのイメージを頭の中に想起できるのかと考えますと、私たちはコスモスという言葉を今までに聞かされ、その意味を説明されているからです。コスモスという言葉が今の小学校の教科書に記載されているのか、わたしは知りませんが、わたしがコスモスという言葉で一番思い起こされるのは、１９８０年、今から４０年前に、カール・セーガンという宇宙科学者が「コスモス・宇宙」というテレビ番組を制作して、自ら出演して、私たちが身を置くこの宇宙の素晴らしい調和と、無限の可能性に満ちた魅力を、じつに手放しの肯定感をもって語ったことです。今、５０歳以上の方々なら、このカール・セーガンの宇宙観になじみのある方も多いのではないかと思います。しかしこのコスモス、日本語で言いますと、この世ですが、このコスモスの問題点は、私たちが持つコスモス観が時と共に移ろっていて、不変のものではないということです。今の世でこの新型コロナの渦中に暮らす私たちが、４０年前のカール・セーガンのようにこのコスモスを、素晴らしい調和と、無限の可能性の魅力だけをもって描くことが出来るでしょうか。そのように私たちのコスモスに対する見方は世代が代われば変わってくるものです。いや、世代だけでなく日々変わって来るといってもいいかもしれません。例えば今年の３月の私たちのコスモス観と今、５月のコスモス観とは、大いに違ったものとなっていると思います。このように考えますと、果たしてコスモスとは私たちの思いや考えの投影にすぎず、果たしてコスモスという実体はあるのだろうかとさえ思えてきます。

　コスモスというのはカオス、混沌の反対語として秩序あるところという意味合いもあります。そういう意味ではコスモスというのは**宇宙の秩序**といったことを意味しますので、一つにはこの宇宙の秩序ということがコスモスの実体だといえるかもしれません。これ以上この問題に深入りしますと哲学になってしまいますので、やめますが、少なくとも、私たちが、そのような移ろいやすいコスモスそして、その秩序にわが身を委ねきることの危険性は感じていただけたかと思います。

　ヨハネ福音書１章２９節で洗礼者ヨハネは、やって来られたイエス様を見て、「見よ、****世****の罪を取り除く神の小羊だ」と叫びました。イエス様を見て、この方こそこの世の罪を取り除くお方であると明言したのです。**世の罪**とは何でしょうか。当時の世は相当、罪深くて、その世にある人たちを救い出すためにイエス様は来られたのでしょう。しかし世の罪というのはその当時に限りません。世の罪、世の見当違いは、どんな世にも、そして今の世にも一様にみられることだとイエス様は言われます。私は世の罪とはその移ろいやすさだと思います。

イエス様は「わたしは、****世****にいる間、****世****の光である」といわれました。イエス様は世の罪のなかに下って来られて、人となりその罪と向き合われました。そして今は天に上り、世にある私たちのために執り成しの祈りをしていてくださいます。ですから教会では古くから、♪「世ーの罪を除く神の小羊よ憐れみをお与えください。」というチャントを歌い続けているのです。

　本日の聖書箇所でイエス様は、「世は、あなたが私をお遣わしになったことを、信じるようになります」といわれ又「私を愛しておられたように、彼らをも愛しておられたことを、世が知る様になる」とも言われます。世が信じるようになるとか、世が知るようになるとかいうのは一体どういうことなのでしょうか。それはヨハネ福音書１章１０節「言ことばは****世****にあった。****世****は言によって成ったが、****世****は言を認めなかった」を踏まえればはっきりしてきます。ことばというのは創世記１章の「光あれ」と神が言われて光がなったように、御言葉のことですが、そのように御言葉は初めから終わりまで世にあるのです。そして世は全て御言葉によってなったのですが、世は御言葉を認めなかった、そして認めていないのです。ですからイエス様は世が信じるようになれ、世が知るようになれと、世にいる私たちのために執り成しの祈りをしていてくださるのです。

　世は御言葉を認めていませんが、その代わり**宇宙の秩序**に信頼して、そのうちに住まおうとしています。しかしイエス様はそれは世の罪であると言われます。なぜならば、私たちが住まうべき主なる**神の栄光**は、混沌から宇宙の秩序が成った天地創造の前から、主なる神の愛によって示され続けているからです。主なる神の栄光は宇宙の秩序にはるかに勝るものです。主なる神の栄光は、私たちを「死なないように」してくださいます。

イエス様は、私たちクリスチャンの言葉を聞いてイエス様を信じるようになった人々のためにも祈っていてくださいます。私たちが隣り人に神の愛を告げ知らせ、そうして、新たに信じてクリスチャンになる人々が増し加えられることをイエス様は祈っておられます。そのように日々クリスチャンの群れに新たな人々が増し加えられながら、すべての人は一つにされて行きます。２３節でイエス様は、「彼らが完全に一つになるため」と祈っておられます。主なる神の栄光によって私たち一人一人が死なないようにされますが、私たちはその信仰によって、完全に一つにされるのです。それは先週の説教の言葉を用いるならば、すべての人々が神の愛に留まっているようになることだとも言えます。すべての人々が神の愛に留まっているようになるとき、世は神の愛を知る様になるのです。

　このように語っていきますと、何か神の愛は容易にこの世に知られ得るのではないかと思われてきますが、現実はそんなに容易なことではないことを私たちは知っています。ヨハネ福音書１４章３０節でイエス様は次のように語っておられます。「もはや、あなたがたと多くを語るまい。****世****の支配者が来るからである。だが、彼はわたしをどうすることもできない。」

　イエス様が言われるようにこの世には、この世の支配者、統治者がいます。ですから私たちクリスチャンが信じる神の栄光と、この世の支配者の間では常に葛藤や、時には争いがあることが避けられないのです。そしてこの世の支配者は「我々が死なないようにしてください」と祈ること自体を封じようとしているかのようです。

　新型コロナウィルスはやがてその性質や構造が人々によって明らかにされ、いままで世に現れた多くの旧型のウィルスの一つとなって、もはやその脅威は忘れ去られ、人々はそれを新たな秩序の実現として捕らえるかもしれません。そしてだんだんとすべてのウィルスがこの世において克服され、我々はやがて完全な秩序のものにこの世で過ごすことが出来るようになると思われるかも知れません。しかしそのように創られてゆく秩序に身を委ねきることは大変危険なことだと思います。私たちはその秩序に浸りきっていると、主なる神に向かって「我々が死なないようにしてください」と素直に祈ることが出来なくなってくるのではないでしょうか。

　再び、先週の説教で触れた事柄に戻りますが、エルサレムに入城されたイエス様を出迎えた大勢の群衆は、ナツメヤシの枝を振りかざしながら大歓迎してイエス様を出迎えました。

それは彼らが、イエス様がラザロを墓の中から呼び出し、死者の中からよみがえらせられたことに聞きつけたからでした。その大勢の群衆を含めたすべての人々がイエス様に引き付けられ、イエス様の後を追って行ったのを見て、ファリサイ派のたちは「見よ、何をしても無駄だ。**世を挙げて**あの男について行ったではないか」といってささやき合いました。

　世を挙げてイエス様について行った人々の中にはギリシャ人もいました。ギリシャ人は典型的なコスモスの秩序の信奉者としてここに登場させられています。そのギリシャ人に対してイエス様は次のように釘を刺されます。「はっきり言っておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。自分の命を愛する者は、それを失うが、この世で自分の命を憎む人は、それを保って永遠の命に至る。」

イエス様は私たちがこの世で愛し合いながら主なる神の栄光に入れられる道をこのように説明されるのです。イエス様がおっしゃる愛とは、人々がこの世の秩序に身を委ねて安心を得る道ではなく、人々が永遠の命を望まれる神の愛を信じ、そこに留まり、その愛を子供たちに伝え、そうして私たちが完全に一つとされる道であることをイエス様はこのギリシャ人に説明されました。そしてイエス様は今、天より、私たちすべての人のためにそのことを執り成し祈り続けていてくださいます。

お祈りいたします。

天に居ます私たちの父なる神様、今日は五月の青葉輝く日差しのもと、私たちを御前に集めて頂き、共にあなたを礼拝賛美出来ます幸いに感謝いたします。どうか私たちがこれからも素直にあなたに向かって、「私たちが死なないようにしてください」と祈り続けることが出来るようにしてください。どうかこの会堂を一つの聖霊で満たし、私たちが愛しあいながら、あなたの栄光の内に入れられますよう上からの励ましをお願いいたします。

　主よ、この地に暮らす私たちを憐れみ、疫病、地震、洪水、暴風、火災、また不慮の事故から、お救いください。

主よどうか、この世に暮らすすべての人のために祈って下さい。すべて迷っている人、欺かれた人、心の閉ざされている人、孤独を感じている人、身寄りのない人を守り、まことの道へ導いてください。

　この別府の町の界隈にも少しづつ人通りが戻ってきました。どうか私たちの日々の生活を御心によって整え導いてください。あなたの愛によって一つとされる喜びを多くの人達が知ることが出来るようにしてください。

この地にある各教会、ことに別府不老町教会を覚えて祈ります。主よ、御心ならば、又私たちを会堂に集め、代々の聖徒たちと共に、この会堂であなたを礼拝賛美することが出来るようにしてください。あなたの体である教会がいつもすべての人に開かれ、あなたの栄光に加えられる集いの喜びに導いてください。

　これらのことを、私たちの救い主イエス・キリストのみ名によって祈り願います。